

平成 1 7 年度

大分市美術館

年 報

目次

1. 運営方針	4
2. 沿革	5
3. 展覧会事業	6
3.1. 特別展	6
3.2. 常設展	23
3.3. サマー企画	35
3.4. 収蔵品小企画	39
3.5. 合併記念展	40
3.6. 大分市美術展覧会	41
4. 教育普及事業	42
4.1. ハイビジョンシステム	42
4.2. アートシアター	45
4.3. 芸術に親しむ講座	46
4.4. アートカレッジ	46
4.5. こども講座	47
4.6. サテライト鑑賞教室	49
4.7. 職場体験	50
4.8. ボランティア研修講座	51
4.9. ボランティア活動	52
4.10. 博物館実習	53
4.11. 各種刊行物	54
5. 資料収集事業	55
5.1. 美術品等収集事業	55
5.2. 平成17年度作品貸出実績	57
5.3. 図書	57
5.4. 映像資料	57
6. 管理運営	58
6.1. 職員数	58
6.2. 事務分掌	58
6.3. 利用状況	59
6.4. 建築設備概要	60
6.5. フロア別面積	62
6.6. 予算	63
6.7. 利用案内	63
6.8. 条例	64
6.9. 条例施行規則	64

7. アートプラザ	65
7.1. 運営方針	65
7.2. 施設概要	65
7.3. 業務内容	65
7.4. 現代美術作品 大分市美術館所蔵 常設展示	67
7.5. 利用案内	68
7.6. 利用状況	68
7.7. アートプラザ条例	69
7.8. アートプラザ条例施行規則	69
7.9. アートプラザ管理規則	69

1. 運営方針

大分市美術館は、緑豊かな上野丘公園内に位置し、「たのしんで・みて・まなぶ」美術館として、だれもが気軽に美術を楽しめる場と機会を提供している。年間を通じて所蔵の美術品が鑑賞できる常設展やさまざまな優れた分野の美術を紹介する特別展の開催、各種講座・講演会の開催など、子どもから大人までが生涯学習の施設として「幅広く楽しむ」美術館の運営をめざしている。また、

- ① 豊後南画をはじめ、大分市にゆかりのある作家の優れた作品
- ② 美術史的展望に立ち、近・現代を中心とした芸術的に価値のある内外の作品
- ③ 将来方向として重視される環太平洋地域の美術についての作品
- ④ 歴史的文化遺産として貴重な美術資料

以上の方針に基づく収集保存活動をはじめとして、調査研究活動、展示活動、教育普及活動、広報活動という5つの活動を通じて、幅広く芸術文化の振興につとめている。

2. 沿革

昭和 60(1985)年		展示用美術品の購入開始
昭和 62(1987)年	6 月	市長、6 月議会において、美術館建設を表明 教育委員会社会教育課を所管事務担当とする
昭和 63(1988)年	8 月	大分市美術館基本構想委員会設置(委員 15 名、会長高辰雄画伯)
平成元(1989)年	3 月	ハイビジョン・シティ構想(郵政省)のモデル都市指定を受ける
	9 月	大分市美術館基本構想委員会が大分市美術館基本構想を答申
平成 2(1990)年	2 月	大分市美術館建設委員会設置(委員 17 名、会長高山辰雄画伯)
	4 月	教育委員会庶務課に美術館建設事務従事を置く
	5 月	美術館建設予定地を上野丘陵地に決定 (第 2 回大分市美術館建設委員会)
	6 月	(仮称)大分市美術館美術作品収集委員会設置要綱制定(委員 9 名)
平成 3(1991)年	4 月	設計者を内井昭蔵建築設計事務所と決定 (指名 5 社プロポーザル方式、第 4 回大分市美術館建設委員会)
	9 月	上野丘公園が「平成記念子どものもり公園(建設省)」に指定される
	10 月	市長、「美術館建設計画の見直し」を発表
平成 5(1993)年	4 月	教育委員会文化振興課を所管事務担当とする
平成 6(1994)年	12 月	市長、定例記者会見で旧県立図書館(磯崎新氏設計)の大分市での有効活用を発表
平成 7(1995)年	4 月	旧県立図書館を大分市が無償貸与を受ける
	9 月	美術館基本・実施設計委託(内井昭蔵建築設計事務所)
	11 月	旧県立図書館(アートプラザ)整備工事設計委託(磯崎新アトリエ)
	12 月	美術館基本設計終了
平成 8(1996)年	4 月	教育委員会に美術館建設準備室を設置
	5 月	美術館実施設計完了
	9 月	美術館敷地造成工事着工 アートプラザ整備工事着工
	12 月	美術館敷地造成工事完成 美術館新築工事着工
平成 9(1997)年	9 月	「アートプラザ条例」制定
	10 月	アートプラザ整備工事完成
平成 10(1998)年	2 月	1 日、アートプラザ開館
	6 月	美術館本体工事完成
	9 月	美術館外構工事完成「大分市美術館条例」制定
	12 月	大分市美術館発足
平成 11(1999)年	2 月	17 日、開館
平成 12(2000)年	11 月	第 41 回建築業協会賞受賞
平成 14(2002)年	2 月	観覧者が 50 万人を超える
平成 16(2004)年	7 月	16 日、皇太子殿下行啓

印刷物 ・ ポスターB2 版 ・ チラシ A4 版 ・ ワークシート A5 版

関連記事 「20 世紀絵本の原点 幻のロシア絵本展」『読売新聞』6 月 29 日
 「幻のロシア絵本ずらり」『読売新聞(大分)』7 月 7 日
 「ロシア絵本続々と」『読売新聞(大分)』7 月 14 日
 「ロシア絵本に笑顔」『読売新聞(大分)』7 月 16 日
 武田順子「余響」『読売新聞(大分)』7 月 27 日
 岡村暢哉「幻のロシア絵本展①～⑤」『読売新聞(大分)』8 月 2 日～7 日
 菅章「幻のロシア絵本 1920～30 年代展に寄せて」『読売新聞』8 月 17 日

(担当 岡村)

プロローグ ロシア絵本の幕開け

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
a		イワン・ビリービン	麗しのワシリーサ	1902	32.3×25.6
b		イワン・ビリービン	イワン皇子、火の鳥と灰色オオカミの物語	1901	32.7×25.6
c	アレクサンドル・プーシキン	イワン・ビリービン	サルタン皇帝の物語	1907	25.4×32.4
d	ハンス・クリスチャン・アンデルセン	ムスチスラフ・ドブジンスキー	豚飼い王子	1922	30.2×23.5
e	ヴィルヘルム・ハウフ	ドミートリー・ミトロヒン	アルマンゾールの生涯	刊行年不明 (1913頃)	30.2×22.9
f	シャルル・ペロー	ウラジミール・コナシェーヴィチ	親指太郎	1923	30.0×22.9
g	ウォルト・ホイットマン	ヴェーラ・エルモラーエワ	開拓者たちよ	刊行年不明 (1918頃)	20.2×15.1
h		ウラジミール・レーベジェフ	ロシアの宣伝ポスター	1923	20.5×18.6

1.二人のウラジミール 絵本革命の旗手

1	ラドヤード・キプリング(文) サムイル・マルシャーク、コルネイ・ チュコフスキー(訳)	ウラジミール・レーベジェフ	子象	1922	27.9×21.6
2		ウラジミール・レーベジェフ	狩り	1925	27.5×22.0
3		ウラジミール・レーベジェフ	馬に乗って	刊行年不明 (1928頃)	23.4×29.2
4	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	サーカス	1925	28.7×21.8
5	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	プードル	1931	19.4×15.2
6	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	おろかな子ねずみ	1928[2版]	28.5×22.8
7	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	荷物	刊行年不明 (1927頃)[2版]	18.8×14.4
8	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	荷物	1931[6版]	19.9×14.5
9	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	昨日と今日	1931[5版]	28.8×22.2
10	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	しましまのおひげちゃん	1931[2版]	28.8×22.7
11	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	職場の表彰板	1931	22.5×17.9
12	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	外国人ペトルーシカ	1935[5版]	29.2×21.8
13	サムイル・マルシャーク	ウラジミール・レーベジェフ	アイスクリーム	1929[3版]	27.5×21.7

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
14	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・レーベジェフ	何というぼんやり屋さん	1935〔10版〕	19.5×15.0
15	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	何というぼんやり屋さん	1931〔4版〕	19.3×15.0
16	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	火事	1932〔9版〕	22.3×18.9
17	サムイル・マルシャーク	ボリス・クストーージェフ(表紙) ウラジーミル・コナシェーヴィチ (絵)	火事	1926〔3版〕	27.6×21.9
18	コルネイ・チュコフスキー	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	バスケットの子猫	刊行年不明 (1929頃)	11.8×15.0
19	コルネイ・チュコフスキー	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	電話	1936〔10版〕	21.6×17.0
20	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	ワニカとワシカ	1925	30.2×22.8
21	コルネイ・チュコフスキー	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	リンポポ	1935	19.0×22.2
22	コルネイ・チュコフスキー	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	大きなゴキブリ	1935	18.7×22.3
23	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	フォーマとエリョーマ	1930	14.3×11.6

2.小さな社会 子どもたちの暮らし

24	サムイル・マルシャーク	アレクセイ・パホーモフ	こわし名人	1931〔2版〕	20.1×15.1
25	L.エゴローフ、 L.ポレジャーエウ	バミヤトヌィフ 〔ニーナ・カーシナ〕	私たちは働く	1932	26.3×18.1
26	V.スミルノーワ	A.ペトローワ	私たちの上級生	1932	22.2×19.5
27	ニコライ・アセーエフ	ナタン・アリトマン	赤いネッカチーフの少年	1929〔2版〕	21.5×17.5
28	オリガ・ベルゴリツ	ニコライ・スヴィネンコ	ピオネールのキャンプ	1931	19.3×17.6
29	マルコ・ヴォロヌイ	エヴゲーニー・ラチョフ	赤いネクタイ	1930	23.2×16.8
30	N.マナセイナ	A.ソボロフ	お手伝い	1928	12.7×13.8
31	O.タリシナ	タチヤーナ・シェフチェンコ	ナターシャ	1927	16.8×16.8
32	アグニヤ・バルトー、O.グリヤン	G.ワシリーエフ	チムカの日	1930〔2版〕	28.9×22.4
33	レフ・ジロフ	A.スヴォーロフ	どのように一日を過ごしたか	刊行年不明	22.4×17.5
34	V.ミローヴィチ	V.ミローヴィチ	私たちの朝食	1926	28.5×21.5
35	サムイル・マルシャーク	ミハイル・ツェハノフスキー、 S.ペトローヴィチ(写真)	四つの結末	1938	21.5×17.0
36	E.シャーバト	ニーナ・カーシナ	はしご	1931〔2版〕	16.7×13.4
37	M.ソロヴィヨーフ	リジヤ・ポポーフ	マトリョーシカ	1930	16.0×13.5
38	フョードル・コンプラトフ	E.タラホフスカヤ	デパート	1930	21.9×18.9
39		P.ノーヴィコフ	スタジアム	1930	22.7×19.4
40	レフ・ジロフ	ヴェーラ・イワーノフ	おつり	1930	15.6×11.2
41	P.ノーヴィコフ	P.ノーヴィコフ	クロスカントリー	1932	14.8×20.1
42	レフ・カッシリ	F.コンプラトフ	ツェツペリン	1931〔2版〕	15.9×13.3
43	ジナイーダ・アレクサンドロフ	ヴェーラ・イワーノフ	小川の風	1932〔2版〕	18.0×13.2
44	エスフィリ・エムデン	タチヤーナ・レーベジェフ	塩	1930〔2版〕	15.6×13.3
45	O.コリチェフ	A.ゴンチャロフ	三つの歌	1933	22.3×19.8
46	アレクサンドル・コワレンスキー	I.フランツース	絵本	1928	14.7×19.4
47	リジヤ・ブドゴスカヤ	アレクセイ・パホーモフ	サーニカをどうやって幼稚園へ連れて行ったか	1933	30.3×21.9

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
48	ニーナ・サコンスカヤ	ダヴィート・シュテレンベルク	人形と本	1932	19.5×15.0
49	ダニイル・ハルムス	ヴェーラ・エルモラーエワ	イワン・イワーヌイチ・サモワール	1929	22.2×18.0
50	ウラジーミル・マヤコフスキー	ナターリヤ・ウシャコーワ	怠け者ヴラスの物語	刊行年不明 (1927頃)	29.8×23.0
51	コルネイ・チュコフスキー	ユーリー・アンネンコフ	しっかり洗え	1933[17版]	28.9×21.3
52	アグニヤ・バルトー、 パーヴェル・バルトー	ヴェーラ・イワノワ	汚れた女の子	1932[3版]	15.0×13.0
53	レオニード・ポリーフ	ユーリー・チェルケーソフ	間抜けなコンロ	1925	27.7×21.7
54	V.ミローヴィチ	ナターリヤ・ウシャコーワ	ぴよんぴよんボール	1926	29.5×21.8
55	V.ミローヴィチ	ニーナ・カーシナ	ぴよんぴよんボール	1930	19.7×14.5
56	コルネイ・チュコフスキー	V.トワルドフスキー	あわれなフェドーラ	刊行年不明 (1928頃)[5版]	28.6×22.4

3.楽しい知識 身の回りから学ぶ

57	A.オルスーフィエフ	リジヤ・ポポーフ	おもちゃ	1928	19.6×14.5
58	レフ・ユージン、 ヴェーラ・エルモラーエワ	レフ・ユージン、 ヴェーラ・エルモラーエワ	紙とハサミ	1931	16.9×12.7
59	V.スミルノフ	ゲオルギー・エチュイストフ	おもちゃの話	1932	28.5×22.7
60	M.パンコーフ	M.パンコーフ	水車	1932[2版]	15.2×13.4
61	ニーナ・サコンスカヤ、 E.ウリリフ	マリヤ・シニャコーワ	手作りおもちゃショー	1932	19.0×14.8
62	M.パンコーフ	B.ニキーフォロフ、 リジヤ・ポポーフ	風車小屋	1932[2版]	18.5×13.3
63	ニーナ・サコンスカヤ	リジヤ・ポポーフ	四つの色について	1930[3版]	22.8×19.3
64	アンナ・プラヴジナ	アンナ・プラヴジナ	子どもと鉛筆	1933[2版]	18.4×13.0
65	K.ロモヴィツキー	K.ロモヴィツキー	三原色	1931	15.2×11.4
66	K.ロモヴィツキー	K.ロモヴィツキー	色の課題	1931	11.9×14.5
67	ニコライ・トローシン、 オリガ・デイネコ	ニコライ・トローシン、 オリガ・デイネコ	ぬり絵をしよう	1931	14.8×20.7
68	アレクサンドル・グローモフ	アレクサンドル・グローモフ	型版	1931	18.9×17.9
69	E.ゾンネンシトラーリ、 コンスタンチン・クズネツォフ	E.ゾンネンシトラーリ、 コンスタンチン・クズネツォフ	印刷工	1932	19.1×14.7
70	サムイル・マルシャーク	ドミートリー・ミトロヘン	本についての本	1935[5版]	22.0×17.0
71	E.ミキーニ	アンナ・プラヴジナ	本の住む家	1932	26.2×18.4
72		リジヤ・ポポーフ	美食家たち	1930	22.1×19.0
73		ダヴィート・シュテレンベルク	食器	1930	14.6×13.0
74	D.チェトベリコフ	ドミートリー・ミトロヘン	おじいさんの工芸屋	1925	26.0×20.1
75	サムイル・マルシャーク	タチャーナ・グレーボワ	マストと翼	1931	19.5×17.6
76	N.スミルノフ	ガリーナ・チチャーゴワ、 オリガ・チチャーゴワ	食器はどこから？	1924	25.7×21.5
77	アレクサンドル・ ヴヴェジェンスキー	レフ・ユージン	だあれ？	1931[2版]	22.3×19.0
78	エヴゲーニー・シュワルツ	エヴゲーニヤ・エヴァンパフ	どっちが速いか	1928	29.1×22.6
79	ニーナ・エフィーモワ	イワン・エフィーモフ	取り替えっこ:影絵芝居	1929	29.1×22.6
80	コルネイ・チュコフスキー	ワレリー・アルフェエフスキー	新しいなぞなぞ	1931[2版]	15.3×13.4
81	V.グリユンタリ、 G.ヤブロノフスキー		これは何でしょう？	1932	17.5×23.7

4.働く人々 労働と生産

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
82	N.アイラクトルスカヤ	アレクセイ・ウスペンスキー	菜園の人々について	1926	27.6×21.7
83	ニコライ・セヴェーリン	F.チホミーロフ	クルミの調査隊	1931	22.5×19.3
84	執筆者不明	ピョートル・ミトゥーリチ	ミチューリンの栽培園	1931	19.6×14.9
85	ワシュートキン	アンナ・ポロフスカヤ	エンドウ豆	1930	15.8×12.9
86	ナタン・ヴェングロフ	リジヤ・ポポーワ	農作業	1930[2版]	14.3×11.4
87	ダヴィード・シュテレンベルク	ダヴィート・シュテレンベルク	お茶	1931	22.0×19.3
88	A.マルコフ	A.ゴンチャローフ	陶器についての手紙	1931	19.9×14.9
89	アレクサンドル・ヴヴェジェンスキー	ヴェーラ・エルモラーエワ	漁師たち	1930	22.7×19.3
90	ミハイル・イリイン	エヴゲーニヤ・エヴァンバフ	革	1930[3版]	19.8×14.9
91	V.ザクラドナヤ	V.ザクラドナヤ(写真)	精肉場	1932[2版]	16.5×22.0
92	サムイル・マルシャーク	ミハイル・ツェハノフスキー	郵便	刊行不明 (1927頃)	21.5×18.6
93	アグニヤ・バルトー	F.シュテルンベルク、N.ギッピウス	郵便屋さんがドアをたたく	1932	18.5×13.3
94	ウラジーミル・タンビ	ウラジーミル・タンビ	自動車	1930	22.5×19.0
95	ブリリエフ	ウラジーミル・タンビ	擬装	1930	22.5×18.9
96	ウラジーミル・タンビ	ウラジーミル・タンビ	軍艦	1929	22.1×18.7
97	ブリリエフ	ウラジーミル・タンビ	潜水艦	1930	22.7×19.3
98		アレクサンドル・デイネカ	雲のなかで	1930	22.5×19.3
99	E.ハーゲン	ニソン・シフリン	石油	1931	28.7×21.8
100	S.ポローチン	ワジム・コンスタンチーノフ	緑の金(燐灰石)	1931	19.0×22.7
101		ボリス・エルモレンコ	特別な服	1930	23.2×16.5
102	ウラジーミル・マヤコフスキー	ニソン・シフリン	何になるか?	1932[4版]	22.2×19.8

5.世界は広い 風土と民族

103	イリーナ・カルナウホフ、 エステル・パベルナヤ	アリーサ・ポレート	これは誰のおもちゃ?	1930	22.3×19.2
104	アグニヤ・バルトー	ゲオルギー・エチュイストフ	小さな兄弟たち	1932[5版]	22.2×19.1
105	N.ポスペーロワ	ボリス・ポクロフスキー	さまざまな民族の子どもたち	刊行不明	21.6×19.3
106	S.シェルヴィンスキー	G.レーヴィン	アザラシのチューリヤ	1928	19.0×14.4
107	O.グリヤン	アンナ・ポロフスカヤ	北方	刊行不明 (1927頃)	28.6×23.0
108	O.グリヤン	P.スタロノーソフ	金の尾	1931[2版]	21.8×17.4
109	ミハイル・ルデルマン	アンナ・ポロフスカヤ、 L.エリセーエヴニナヤ	北の五月	1933	22.2×19.6
110	I.ポリャンスカヤ	K.コズロワ	カザクスタン行き列車	1931	16.0×13.5
111	M.ランコフ、E.ロドワ	M.ランコフ、E.ロドワ	トルキスタンの綿花	1931	19.2×14.7
112	レフ・ブルーニ	レフ・ブルーニ	私たちの熱帯	1931	19.2×14.8
113	N.シェル	A.ゴンチャローフ	ジャニクとキリュウシヤ	1932[2版]	21.9×19.0
114	S.シェルビンスキー	リジヤ・ジョルトケーヴィチ	オレンジの話	1930[2版]	22.0×18.5

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
115	アレクサンドル・ヴヴェジェンスキー	タチャーナ・グレーボワ	バトゥームへの旅	1931	12.6×17.2
116	A.ゲーリナ	アレクサンドル・モギレフスキー	アラブの少年ハッサン	1932[2版]	21.9×18.9
117	ニコライ・アグニフツェフ	サムイル・アドリヴァンキン	ちっちゃな黒人の坊や	刊行不明	30.0×23.0
118	Yu.ワルシャフスキー	ユーリー・ペトローフ	ミスター・スミス	1931	19.6×14.5
119	O.グリヤン	ダヴィート・シュテレンベルク	ガルとムガトウ:黒人の子どもたち	1928	22.7×19.5
120	コルネイ・チュコフスキー	ムスチスラフ・ドブジンスキー	バルマレイ	1925	27.8×22.0
121	ラドヤード・キプリング(詩) サムイル・マルシャーク(訳)	ダヴィート・シュテレンベルク	北緯40度西経50度	1931	22.5×19.3
122	A.レイフェルト、Ya.メクシン	アレクサンドル・モギレフスキー	長い名前	1929	19.8×14.6
123	ウラジーミル・ピヤスト	K.ユシチェンコ	セミと鶉	1929	27.4×22.0
124	O.ステシェンコ	イワン・キシル	お茶	刊行不明 (1929頃)	16.4×12.8
125	F.フェドートフ	タチャーナ・ズヴォナリョーワ	モンゴル	1932	22.2×19.1

6.命をはぐくむ自然 動物たちの生態

126		エヴゲーニー・チャルーシン	いろいろな動物	1931[2版]	19.4×14.6
127		エヴゲーニー・チャルーシン	自由な鳥たち	1931[2版]	19.7×15.2
128	ヴィターリー・ビアンキ	ニコライ・ティルサ	雪の本	1926	27.2×20.1
129	ヴィターリー・ビアンキ	エヴゲーニー・チャルーシン	巣穴	1931[3版]	22.6×19.1
130	レスニーク	ニーナ・コーガン	冬と夏	1931	19.1×14.9
131	レスニーク	ニーナ・コーガン	沼の鳥	1931	19.5×14.9
132	ヴィターリー・ビアンキ	ニコライ・ティルサ	森の家	1934[3版]	28.3×22.0
133	ヴィターリー・ビアンキ	ユーリー・ワスネツォーフ	沼	1931	22.9×19.2
134	M.ベケートワ	エドゥアルト・クリンメル	飛んで行け	1928	19.4×14.8
135	エヴゲーニー・シュワルツ	テオドール・ペヴズネル	鳥の庭	1931	19.9×14.5
136	ヴィターリー・ビアンキ	ビョートル・ミトゥーリチ、 ヴェーラ・フレープニコワ=ミトゥーリチ	最初の狩り	刊行不明 (1928頃)	28.6×22.5
137	O.タリシナ	V.ワターギン	家畜	1933	22.4×19.4
138	M.ドン	アンドレイ・ブレイ	ウサギについての歌	1932	22.4×19.4
139	ソフィヤ・フェドルチェンコ	ニコライ・クプレヤーノフ	ウサギ	1930	10.9×12.9
140	サムイル・マルシャーク	エヴゲーニー・チャルーシン	檻のなかの子どもたち	1936[2版]	27.9×21.9
141	エヴゲーニー・チャルーシン	エヴゲーニー・チャルーシン	暑い国の動物たち	1935	28.1×22.2
142	S.シエルヴィンスキー	レフ・ブルーニ	動物園	1927	28.7×22.4
143	ダニイル・ハルムス	ウラジーミル・タトリン	まず第一に、そして第二に	1929	27.0×20.0
144	アレクセイ・トルストイ	ナターリヤ・イズナル	小さなねずみ:童話	1930	15.5×13.4
145	コルネイ・チュコフスキー	セルゲイ・チェホーニン	大きなゴキブリ	1923[3版]	30.0×22.7
146	ヴィクトル・シクロフスキー	タチャーナ・レーベジェワ	影の話	1931	19.8×15.2
147	ミハイル・ゾシチェンコ	ナタン・アリトマン	賢い動物たち	1939	28.5×21.8
148	コルネイ・チュコフスキー	ユーリー・ワスネツォーフ	大さわぎ	1934	19.2×14.9

7 私たちの国 過去から未来へ

No.	作者名(詩・文・訳)	作者名(絵)	作品名	刊行年	寸法(cm)
149	ナタン・ヴェングロフ	ゲオルギー・トゥガーノフ	祝日	1930	10.8×12.8
150	アグニヤ・バルトー他	アレクセイ・ラプチェフ他	五月	1932	22.2×19.6
151	M.ドゥビヤンスカヤ	パーヴェル・バスマノフ	愛鳥の日	1931	17.4×12.8
152		アレクサンドル・デイネカ	赤軍のパレード	1931[2版]	22.6×19.1
153	アレクサンドル・ウヴェジェンスキー	ワレンチン・クルドフ	ブジョーヌイ元帥の騎兵隊	1931	22.5×19.8
154	執筆者不明	ニコライ・クブレヤノフ	アンドレ・マルティ	1930	19.3×23.0
155	Ya.ミレル	タチヤーナ・グレーボワ	いかにわれわれはユデニチを倒したか	1930	22.5×19.5
156	サムイル・マルシャーク	ククルイニクスィ	サメ、ハイエナ、オオカミ	1938	28.3×22.1
157	I.ホロドフ	I.ホロドフ	極東特殊部隊	1932	22.7×19.5
158		P.ノーヴィコフ	軍のスキー部隊	1931	14.9×20.0
159	ミハイル・ルデルマン	S.ボイム、B.スハーノフ	巡洋艦で	1932	22.2×19.5
160	I.コルシチノフ、A.ノトキナ	G.ペトローワ	防衛の準備あれ	1931	20.1×18.0
161	エステル・パベルナヤ	アリーサ・ポレート、L.カプستن	どのように町を造ったか	1932	22.7×19.0
162	ナタン・ヴェングロフ	ニソン・シフリン	十月っ子	1930	22.2×19.2
163	B.エヴゲーニエフ	レオニード・ガンブルゲル	五カ年計画	1930	23.3×16.4
164	サムイル・マルシャーク	グリゴリー・ビビコフ	ドニエプル川との闘い	1931	21.9×17.5
165	オリガ・グローモワ	A.ヴォルコーヴィチ	ドニプレリスタン	刊行不明	25.4×17.7
166	ミハイル・アンドレーエフ	V.トワルドフスキー	二人の兄弟	1925	27.9×21.6
167	執筆者不明	アレクセイ・ラプチェフ	五カ年計画	1930	19.7×18.0
168	ウラジーミル・マヤコフスキー	ボリス・ポクロフスキー	海と灯台についての私の本	1927	29.5×23.5

エピローグ そして誰もいなくなった

i	サムイル・マルシャーク	アレクセイ・パホーモフ	学校の仲間	1937	28.7×22.0
j	ウラジーミル・マヤコフスキー	アレクセイ・パホーモフ	何になるか?	1948	29.9×22.8
k.1	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	火事	1932[9版]	22.3×18.9
k.2	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	火事	1941	13.8×11.0
k.3	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・コナシェーヴィチ	火事	1945	8.6×6.0
l.1	執筆者不明	V.アヴェーリン	キツネと鶴	1945	10.4×6.5
l.2	シャルル・ペロー	V.タウベル	赤ずきん	1945	10.5×6.7
l.3	執筆者不明	V.アヴェーリン	おちびさんたち	1945	10.5×6.7
l.4	Yu.フィドレル	フラトキン	動物たちのスポーツ	1945	10.7×6.6
l.5	セルゲイ・ミハルコフ	I.クズネツォフ	私と友だち	1945	10.5×6.7
l.6	執筆者不明	V.アヴェーリン	丸パン	1945	10.5×6.5
l.7	執筆者不明	V.アヴェーリン	カザフスタン山地で	1945	10.4×6.7
l.8	コルネイ・チュコフスキー	A.カネフスキー	しっかり洗え	1945	10.4×6.5
m	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・レーベジェフ	十二月(森は生きている)	1952	28.1×22.2
n	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・レーベジェフ	おろかな子ねずみ	1953	28.8×22.2
o	サムイル・マルシャーク	ウラジーミル・レーベジェフ	しましまのおひげちゃん	1954	27.9×22.4

3. 1. 2. 戦後大分の美術Ⅱ 大分前衛美術会／7人の会

－その軌跡をたどって

概要 アンフォルメル旋風が吹き荒れた1950年代が終わり、1960年代初頭には、ヌーボー・レアリスムあるいはネオ・ダダと呼ばれる前衛芸術運動が起こり、さらにポップ・アートなどに見られる新たな具象的傾向が台頭した。また幾何学的抽象の復活など、抽象芸術自身も変質を遂げ、戦後芸術はまさに転換期を迎えた。

本展では、こうした国際的規模における美術界の動向に敏感に反応しつつ、大分を主舞台にして、1960年から1966年まで活動した「大分前衛美術会」、1967年から1972年まで活動した「7人の会」の活動状況を明らかにすることにより、当時エネルギーに展開した大分の美術界の状況を紹介した。

また、当時の作家たちの、その後の活動も併せて紹介し、彼らの活動が県画壇でどのような役割を演じてきたかを展覧した。

会期 平成17年9月21日(水)～11月7日(月)

主催 大分市美術館、大分合同新聞社

後援 NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分

出品点数 92点

観覧者数 3,653人

観覧料 一般600(500)円／高大生400(300)円、中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

関連行事 ■リレー講演会(6回)

日時 9月21日(水) 14時～15時30分 **講師** 三浦勉(画家)

演題 7人の会について **参加者** 57人

日時 9月25日(日) 14時～15時30分

講師 脇正人(画家/自由美術協会会員)

演題 大分前衛美術会について **参加者** 52人

日時 10月1日(土) 14時～15時30分

講師 児玉成弘(画家/行動美術協会会員)

演題 7人の会について **参加者** 72人

日時 10月7日(金) 14時～15時30分

講師 十時良(画家/自由美術協会会員)

演題 大分前衛美術会について **参加者** 32人

日時 10月15日(土) 14時～15時30分 **講師** 井上佐之助(美術家)

演題 7人の会について **参加者** 62人

日時 10月28日(金) 14時～15時30分

講 師 渡辺恭英(画家/県美術協会会長)

演 題 60年代当時における大分県美術協会の状況について 参加者 88人

印刷物 ・ポスターB2版・チラシA4版・図録(29×22cm)

関連記事 「大分の前衛美術 戦後の足跡回顧」『西日本新聞』9月15日

「県内美術家集団の軌跡」『読売新聞』9月22日

「三浦勉氏・脇正人氏 講演会」『大分合同新聞』9月29日

「児玉成弘氏・十時良氏 講演会」『大分合同新聞』10月17日

「井上佐之助氏・渡辺恭英氏 講演会」『大分合同新聞』11月3日

(担当 大神)

番号	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
1	三浦勉	荊の塔	1958	150.3×61	油彩、板
2	三浦勉	行人	1959	150.5×65.5	油彩、キャンバス
3	岩尾秀樹	並ぶ	1960	78.5×116.5	〃
4	三浦勉	目のある風景	1962	116.7×72.7	〃
5	岩尾秀樹	蠅螂	1963	97×130.3	〃
6	安藤真	作品	1962-1963頃	72.7×90.9	〃
7	江藤明	炸	1962	117.×91.0	〃
8	脇正人	人	1959	65.5×91.5	〃
9	江藤明	翔	1959	89.4×130.3	〃
10	江藤明	黎	1961	97×145.5	〃
11	神田千里	並ぶ人	1962	90.9×116.7	〃
12	安藤真	湖の朝	1962-1963頃	72.7×90.9	〃
13	江藤明	化景1	1964	162.1×112.1	〃
14	安藤真	作品	1962-1963頃	72.7×90.9	〃
15	安藤真	作品	1962-1963頃	72.7×90.9	〃
16	井上佐之助	作品	1963	162.1×130.3	〃
17	神田千里	家族	1965	116.7×90.9	〃
18	十時良	生きものの風景	1965	130.3×97	〃
19	十時良	生きものによる	1966	130.3×97	〃
20	二宮秀夫	あけぼの	1965	145.5×97	油彩、板
21	脇正人	作品	1968	60.5×73	油彩、キャンバス
22	岩尾秀樹	群像・黒	1969	80.3×100	〃
23	二宮秀夫	かに	1967	162.1×130.3	〃
24	廣瀬通秀	寓話1	1968	227.3×181.8	〃
25	廣瀬通秀	寓話2	1968	227.3×181.8	〃
26	岩尾秀樹	像2	1968-1969	90.9×72.7	〃
27	岩尾秀樹	像Ⅲ	1968-1969	60.6×72.7	〃
28	岩尾秀樹	群像(白)	1968	162.1×130.3	〃
29	三浦勉	出陣	1969	90.9×72.7	〃
30	二宮秀夫	作品B	1971	130.3×227.3	〃

番号	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
31	渡辺恭英	0の周辺V	1969	162.1×130.3	油彩、キャンバス
32	神田千里	家族2	1969	90.9×116.7	〃
33	井上佐之助	レジャープロジェクト2	1968	162.1×130.3	〃
34	井上佐之助	VENUS・PROJECT2	1970	162.1×130.3	〃
35	渡辺恭英	GATE No. 9	1972	162.1×130.3	〃
36	脇正人	人(I)	1971-1972	112.1×145.5	〃
37	新名隆男	BUDDHIST	1968	40×15×15	木材
38	渡辺恭英	黒の座標Ⅲ	1970	162.1×130.3	油彩、キャンバス
39	井上佐之助	マイアフリカ	1971	43.5×63	モノプリント
40	二宮秀夫	作品B	1971	227.3×130.3	油彩、キャンバス
41	脇正人	ひと	1971-1972	80.3×60.3	〃
42	脇正人	人(Ⅱ)	1971-1972	112.1×145.5	〃
43	飯尾寿夫	植物Ⅱ	1972	162.1×130.3	〃
44	飯尾寿夫	予兆	1970	130.3×162.1	〃
45	新名隆男	フィッシュ	1966	60×40×30	光学ガラス
46	西村駿一	南より	1971	130.3×162.1	油彩、キャンバス
47	西村駿一	地のうた	1972	130.3×162.1	〃
48	安藤真	昼下がりの風	2003	116.7×116.7	〃
49	安藤真	風の周辺1	2004	116.7×116.7	〃
50	安藤真	風の周辺2	2005	116.7×116.7	〃
51	飯尾寿夫	アトリエ寓話(E)	1998	162.1×227.3	〃
52	飯尾寿夫	アトリエ寓話(漂)	2001	162.1×227.3	〃
53	飯尾寿夫	アトリエ寓話D	2004	227.3×162.1	〃
54	井上佐之助	作品1	2005	57.5×68	フォトコラージュ
55	井上佐之助	作品2	2005	58×68	〃
56	岩尾秀樹	海景	1997	130.3×162.1	油彩、キャンバス
57	岩尾秀樹	おまえⅠ	1987	91.5×91.5	〃
58	岩尾秀樹	おまえⅡ	1987	91.5×91.5	〃
59	岩尾秀樹	風景	1982	162.1×130.3	〃
60	江藤明	MY SPACE・90	1990	194×162	〃
61	江藤明	記憶・97	1997	162.1×162.1	〃
62	江藤明	待っている場所	2004	194×162	〃
63	神田千里	手の風景A	1989	112.1×145.5	〃
64	神田千里	連鎖する形	1982	112.1×145.5	〃
65	神田千里	裸婦のある風景	1980	112.1×145.5	〃
66	児玉成弘	視界2002-7	2002	193.9×259.1	〃
67	児玉成弘	街角1991-7	1991	181.8×227.3	〃
68	児玉成弘	街角1987-1	1987	181.8×227.3	〃
69	十時良	疲労する風景97-10	1997	162.1×162.1	〃
70	十時良	地表の風94-6	1994	162.1×162.1	〃
71	十時良	見えない風01-B	2001	162.1×162.1	〃
72	新名隆男	神	1982	90×25×25	アクリル、真鍮

番号	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
73	新名隆男	風景と水	2004	70×40×20 90×42×20	アクリル
74	西村駿一	ふるさと'03	2003	162.1×130.3	油彩、キャンバス
75	西村駿一	ふるさと'04	2004	162.1×130.3	〃
76	西村駿一	ふるさと'05	2005	162.1×130.3	〃
77	二宮秀夫	人	1982	181.8×227.3	〃
78	二宮秀夫	人(Ⅲ)	1983	181.8×227.3	〃
79	二宮秀夫	港	1974	181.8×227.3	〃
80	廣瀬通秀	雲雀	1999	193.9×162.1	〃
81	廣瀬通秀	説く人	2003	193.9×162.1	〃
82	廣瀬通秀	ねがい	2004	193.9×162.1	〃
83	三浦勉	マスクABCD	2003	各45.5×37.9 (4点セット)	アクリル、キャンバス
84	三浦勉	マスクA' B' C' D'	2003	各45.5×37.9 (4点セット)	〃
85	三浦勉	野火	2003	72.7×60.6	〃
86	三浦勉	何処へ	2003	60.6×72.7	〃
87	脇正人	コンポジションB	1986	145.5×112.1	油彩、キャンバス
88	脇正人	89作品(5)	1989	130.3×130.3	〃
89	脇正人	89作品(6)	1989	130.3×130.3	〃
90	渡辺恭英	二筋の...	1990	194×162	〃
91	渡辺恭英	煬象Ⅱ	1997	194×162	アクリル、カーボン、 板、和紙
92	渡辺恭英	いのちⅣ	2001	194×162	〃

3. 1. 3. 近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ

～静岡県立美術館所蔵品による～

概要 本展は日本近世絵画の優れたコレクションで知られる、静岡県立美術館所蔵の名品約40点によって、(Ⅰ)室町・桃山時代の狩野派(Ⅱ)狩野探幽と江戸狩野の系譜(Ⅲ)京都の狩野派(Ⅳ)狩野派から近代日本画へ(Ⅴ)百花繚乱の江戸絵画の5つのテーマに分けて日本近世絵画の流れを包括的に紹介した。

会期 平成17年11月18日(金)～12月25日(日)

主催 大分市美術館、静岡県立美術館 大分合同新聞社

後援 NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分

出品点数 44点

観覧者数 4,701人

観覧料 一般1,000(800)円／高大生700(500)円、中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

関連行事 ■講演会

日時 平成17年12月3日(土) 14時～15時30分

講師 山下善也氏(静岡県立美術館 主任学芸員)

演題 絵画の旅－狩野派発、若冲行 参加者 95人

■展示解説

日時 11月23日(水)、12月18日(日) 14時～

担当 野田菜生子 参加者 61人

印刷物 ・ポスターB2版・チラシA4版・鑑賞の手引きA4版

関連記事 野田菜生子「近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ－上、中、下」

『大分合同新聞』夕刊11月24日～26日

野田菜生子「伊藤若冲 樹花鳥獸図屏風」『西日本新聞』10月29日

(担当 野田)

第1章 近世絵画の源流——安土・桃山の狩野派

No.	作者名	作品名	員数	素材・技法	制作年	前期	後期
1	初期狩野派	四季花鳥図屏風	六曲一双	紙本着色	室町末期(16世紀中頃)	○	○
2	狩野重信	帝鑑図・咸陽宮図屏風	六曲一双	紙本金地着色	桃山時代(17世紀初)	○	○
3	海北友松	禅宗祖師・散聖図屏風	六曲一双	紙本墨画	1613(慶長18)	○	○
4	狩野派	伊豆三津長浜より富嶽を望む図	一幅	紙本墨画淡彩	17世紀(江戸初期)	○	○
5	狩野山雪	富士三保松原図屏風	六曲一双	紙本墨画金泥引	17世紀前半(江戸初期)	○	○

第2章 天下人の御用絵師——江戸狩野

6	狩野探幽	七賢九老図屏風	六曲一双	紙本墨画淡彩	1639~42(寛永16~19)	○	
7	狩野探幽	一ノ谷合戦・二度之懸図屏風	六曲一隻	紙本金地着色	1657~61(明暦3~万治4)	○	○
8	狩野探幽	富士山図	一幅	紙本墨画淡彩	1667(寛文7)	○	○
9	狩野探幽	白 図	一幅	絹本着色	1661頃(寛文元頃)	○	○
10	狩野尚信	西湖図屏風	六曲一双	紙本墨画淡彩	17世紀前半(江戸初期)		○
11	狩野安信	猿曳き・酔舞図屏風	六曲一双	紙本墨画淡彩	17世紀中頃(江戸初期)	右隻	左隻
12	狩野常信	波濤・花鳥図屏風	六曲一双	紙本着色金泥	1704~09(宝永1~6)	○	
13	英一蝶	琴高仙人図	一幅	紙本墨画淡彩	17世紀後半(江戸初期)	○	○
14	狩野探信	井手玉川・佐野渡図屏風	六曲一双	紙本着色	17世紀後半~18世紀初(江戸前期)		○
15	狩野周信	蓮池鷺図	一幅	絹本着色	17世紀末~18世紀初(江戸前期)	○	○

第3章 京都の狩野派

16	狩野永納	蘭亭曲水図屏風	六曲一双	紙本金地着色	17世紀後半(江戸初期)	○	○
17	狩野永納	三教図	一幅	絹本着色金泥	1652(承応元)	○	○
18	山本探川	宇津の山図屏風	二曲一隻	紙本着色	1755~69(宝暦5~明和6)	○	○
19	石田幽汀	群鶴図屏風	六曲一双	紙本金地着色	18世紀(江戸中期)	○	○
20	狩野永良	親子犬図	一幅	絹本着色	18世紀後半(江戸中期)	○	○

第4章 御用絵師たちの系譜——近世から近代へ

21	狩野典信	山水図	一幅	絹本墨画金泥	1762~80(宝暦12~安永9)	○	○
22	狩野惟信	富嶽十二ヶ月図巻	一卷	紙本着色	1781~94(天明1~寛政6)	○	○
23	狩野惟信	山水図押絵貼屏風	六曲一隻	紙本墨画着色	1781~94(天明1~寛政6)	○	○
24	狩野栄信	百猿図	一幅	絹本着色	1802~16(享和2~文化13)		○
25	狩野栄信	楼閣山水図屏風	二曲一隻	絹本着色	1802~16(享和2~文化13)	○	○
26	狩野永岳	富士山登龍図	一幅	絹本墨画	1852(嘉永5)	○	○
27	狩野養信	竹雀図屏風	六曲一双	紙本金地着色	1834~46(天保5~弘化3)	○	
28	狩野永祥	山水図屏風	六曲一双	紙本墨画	19世紀後半(明治初期)		○
29	狩野芳崖	寿老人図	一幅	紙本墨画淡彩	1881~85頃(明治14~18頃)	○	○
30	橋本雅邦	三井寺	一幅	紙本着色	1894(明治27)	○	○

第5章 百花繚乱の江戸絵画

31	土佐光起	秋草鶉図	一幅	絹本着色	17世紀中頃(江戸初期)	○	○
32	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	一面	絹本油彩	1799(寛政11)	○	○
33	原在中	富士三保松原図	一幅	絹本着色	1882(文政5)	○	○
34	池大雅	龍山勝会・蘭亭曲水図屏風 ※重要文化財	六曲一双	紙本着色	1763(宝暦13)	○	○
35	池玉瀾	溪亭吟詩図	一幅	紙本墨画着色	18世紀(江戸中期)	○	
36	谷文晁	連山春色図	一幅	絹本着色	1797(寛政9)	○	

No.	作者名	作品名	員数	素材・技法	制作年	前期	後期
37	浦上春琴	競秀争流図	一幅	絹本着色	1830(文政13)		○
38	中林竹洞	傲董源山水図	一幅	絹本墨画	1843頃(天保14頃)		○
39	円山応挙	木賊兔図	一幅	絹本着色	1786(天明6)	○	○
40	呉春	柳陰帰漁図屏風	二曲一隻	紙本墨画淡彩	1783(天明3)	○	○
41	長沢蘆雪	牡丹孔雀図	一幅	絹本着色	1793~99(寛政5~11)	○	○
42	長沢蘆雪	大原女	一幅	絹本着色	1793頃(寛政5頃)	○	○
43	酒井抱一	月夜楓図	一幅	絹本墨画	1817~28(文化14~文政11)	○	○
44	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風	六曲一双	紙本着色	18世紀後半(江戸後期)	○	○

※展示替 前期展示：11月18日～12月5日 後期展示：12月7日～12月25日

3. 1. 4. 写実主義の巨匠 クールベ美術館展

概要 本展は、クールベの初期から晩年にかけての風景画を中心に、人物画さらには同時代の画家との共同制作作品、クールベを敬愛した画家たちの作品、また、関係資料を加え、写実主義の巨匠クールベの画業の全貌を紹介した。。

会期 平成 18 年 1 月 7 日(土)～3 月 21 日(火)

主催 大分市美術館、大分合同新聞社

後援 フランス大使館、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、エフエム大分

企画協力 IS ART INC.

出品点数 78 点

観覧者数 12,105 人

観覧料 一般 800 (600) 円／高大生 600 (400) 円、中学生以下無料

※ () 内は 20 名以上の団体料金

関連行事 ■鑑賞講座

日時 平成 17 年 1 月 15 日(日) 14 時～15 時 30 分

講師 菅 章 (大分市美術館学芸課長)

演題 クールベ絵画の今日的意義 参加者 107 人

■展示解説

日時 1 月 22 日(日)、2 月 26 日(日)、3 月 3 日(金) 14 時～

担当 岩尾徳信 参加者 169 人

印刷物 ・ポスターB2 版・チラシ A4 版

関連記事 「風景画を中心に 80 点」『大分合同新聞』夕刊 1 月 13 日、
菅章 談「開かれた美術館モットーに」『大分合同新聞』1 月 13 日、
「魅惑のフランス絵画満開」『日本経済新聞』1 月 19 日、
「東西南北」『大分合同新聞』1 月 20 日、
小川善規「印象派に道を開く」『大分合同新聞』夕刊 1 月 20 日、
岩尾徳信「一写実主義の巨匠ークールベ美術館展 1～5」『大分合同新聞』夕刊 2 月 6～10 日、
「絵画の常識打ち破る」『大分合同新聞』夕刊 2 月 26 日、
「20 日は特別開館」『大分合同新聞』夕刊 3 月 17 日

(担当 岩尾)

	作者名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
1	ギュスターヴ・クールベ	岩に囲まれた画家とモデル	1838	38×46	油彩／キャンヴァス
2	〃	オルナンに向かって流れるルー川	1838	19×26	〃
3	〃	浅瀬を渡る	1841	26×22	〃
4	〃	オルナンの若い女性の肖像	1842	71×57	〃
5	〃	錫メッキ屋	1842	50×61	〃
6	〃	アルジェ太守の囚われ人	1944	81×65	〃
7	〃	フォンテーヌブローの風景の習作	1850	32×45	〃
8	〃	田舎の獵師たち	1857	71×89	〃
9	〃	サランの若い娘	1859	48×37	〃
10	〃	仔山羊を抱く村の娘	1860	81×65	〃
11	〃	セー・アン・ヴァレのルー川	1860	67×80	〃
12	〃	ルイ=オーギュスタン・オーガンの肖像	1862-63	72×54	〃
13	〃	サントーンジュの風景	1862-63頃	56×47	〃
14	〃	オルナンの釣り人	1863	46×54	〃
15	〃	オルナンの城	1864	65×81	〃
16	〃	ブレーム川の滝	1864	75×94	〃
17	〃	舟遊び	1864	47×57	〃
18	〃	オルナンの製紙場	1865頃	60×73	〃
19	〃	オルナン近くの断崖	1865頃	55×85	〃
20	〃	雪に覆われた水源の洞窟	1866	74×97	〃
21	〃	トゥルーヴィルの黒い岩	1866	32×55	〃
22	〃	聖職者会議物語（会議の始まり）	1868	60×77	油彩／板
23	〃	聖職者会議物語（争い、または窓外放出）	1868	60×77	〃
24	〃	聖職者会議物語（就寝、または司祭館への帰還）	1868	60×77	〃
25	〃	ペラスケス風の男の肖像	1869	58×43	油彩／キャンヴァス
26	〃	ジュラの風景	1872	46×56	〃
27	〃	岩場の滝	1872	48×40	〃
28	〃	岩場の風景	1872	27×32	〃
29	〃	サン=トーヴァンの浜辺	1872	33×41	〃
30	〃	シヨン城	1874	86×100	〃
31	〃	ノルマンディの海景	1873	33×41	〃
32	〃	滝	1873	65×55	〃
33	〃	オルナン近郊の風景	1873	50×61	〃
34	〃	日没	1875	38×55	〃
35	〃	岩場の風景	1875	51×66	〃
36	〃	木のある風景	1860頃	37×30	素描／紙
37	〃	川の辺り	1863頃	42×53	〃
38	〃	石割人夫	1865	29×22	リトグラフ
39	〃	田園の恋人たち	1867	27×23	ペン画掲載新聞
40	〃	牝牛の番をする娘に施しをする オルナンのお嬢さんたち	1867	22×31	エッチング
41	〃	傷ついた男	1867	20×23	ペン画の複本

	作者名	作品名	制作年	寸法 (cm)	素材・技法
42	ギュスターヴ・クールベ	追いつめられた鹿	1869	15×22	リトグラフ
43	〃	聖職者会議からの帰り道	1868	18×26	エッチング
44	〃	同僚の家での食事	1869	18×28	〃
45	〃	エルヴェティア	1875	60×44	リトグラフ
46	〃	釣り人のいる風景	1870	60×73	油彩／キャンヴァス
47		風景の中の牡鹿と猟師たち	1872-73頃	40×48	〃
48		黒の岩場にかかる夕日	1870-75頃	53×102	〃
49		シヨン城	1875	74×92	〃
50		ジュラの風景	1876頃	59×73	〃
51		川の堰きとめ所	1875-80頃	46×55	〃
52	ケルピノ・パタ	森の中の溪流	1872頃	46×60	〃
53	〃	ピュイ・ノワール川	1872-73頃	19×24	〃
54	〃	オルナンの近くの平原風景	1877-80頃	50×61	〃
55	〃	ボン・ポールのテラス	1877	26×34	〃
56	〃	クールベの寓話的な肖像	1878	22×16	〃
57	〃	古い水車	1878	33×42	〃
58	〃	アルプスの森の風景	1882	81×65	〃
59	〃	薪を集める女	1883	46×56	〃
60	ジャン＝ジャン・コルニユ	田舎の猟師の休憩所	1860	89×116.5	〃
61	アレクサンドル・ラパン	ピュイ・ノワール付近のブレーム川の溪流	1873	54×65.5	〃
62	テオフィル・モレル	雪の風景	1877	45.5×55.5	〃
63	〃	山の頂上付近の水源	1877-80頃	48×37	〃
64	ニコラ・フランソワ・シフラー	ギュスターヴ・クールベの肖像	1850頃	55×46	〃
65	〃	オルナン近郊の風景	1860頃	40×67	〃
66	エルネスト・ブリゴ	雪景色の中の滝	1872	97.5×130.5	〃
67	〃	鹿のいる風景	1870-75	51×80	〃
68	フランソワ＝ルイ・フランセ	釣りをするクールベ	1865	100×80	〃
69	ナルシス・ディアス・ド・ペナ	森の辺り	1865-68	27×20.5	〃
70	ロベール・フェルニエ	クールベへのオマージュ	1952-55	100×156	〃
71	ベルナール・ビュッフエ	クールベのために、ヴェルドン川の峡谷	1993	98×147	〃
72		クールベ愛用のパイプ3本			
73		クールベのデス・マスク		29 x 16 x 18	ブロンズ
74		クールベの手		23 x 12 x 7	石膏
75		パリ・コミュニケーション紙 No. 3		25×16.5	
76		ル・フィス・デュ・ペール・デュシエール紙 No. 7		13×14	
77		「オルナンの埋葬」を描いたアトリエの壁		12×12	
78		エティエンヌ・カルジャによるクールベの肖像写真	1865頃	28.5×23	

※No. 32「シオン城」は2月12日までの展示。No. 46「釣り人のいる風景」は北海道立帯広美術館蔵。